

長崎日本大学高等学校

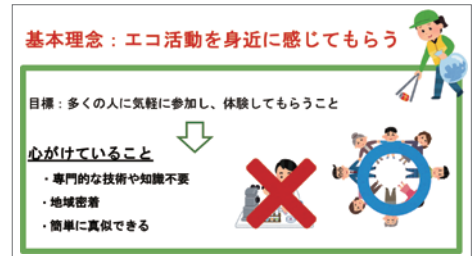
〒854-0063 長崎県諫早市貝津町1555 ☎0957-26-0061

活動団体 ボランティアサークル 活動人数 16人 主な活動時間 部活動として

実はゴミじゃない!?

きっかけ

長崎日本大学ボランティアサークルは、“Love someone with my love.”を合言葉に生徒が主役で取り組んでいる。エコやSDGsにつながる活動も数多い。



誰にでも真似できる活動を発信して、エコ活動を身近に感じてもらうことを活動の基本理念としている。

活動内容

主なエコ活動は、4つある。1つ目は、コンタクトレンズの空ケースの回収だ。学校内で集めた空ケースをリサイクル工場に送り、リサイクルしてもらう。2つ目は開発途上国への物品寄付で、学校のデザイン美術科や部活動、家庭に声を掛け、使わなくなったがまだ使えるものを集め、それらを必要としている国の方々に提供した。3つ目は「g-sports」。一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブが主催する、ごみをスポーツに見立てた活動「スポGOMI」を参考に、より参加しやすく、高校生がより楽しめるようにリメイクして校内で開催し、チーム対抗で拾った量を競いあった。4つ目としては、衣料品メーカーの、使わなくなった子ども服回収プロジェクトに参加し、学校内外に呼び掛けて、難民の方など本当に服を必要とする人たちに届く手伝いも行った。



ごみ拾いをスポーツに見立てた活動も授業のない土曜の午後に行うことで多くの生徒たちの参加を促した。

成果

コンタクトレンズの空ケースは、2022年7月までに9万個以上回収し、焼却処理がなくなった分、251.71kgのCO₂を削減したことになる。途上国への物品寄付は、受け取った方々から感謝状が届くなど、目に見える成果が得られた。g-sportsの取り組みでは、普段何気なく通っている学校周辺の道で、44kgものごみを回収。楽しく活動しながら、まちの美化への参加意欲を高めることができた。子ども服の回収も、2022年9月から11月末までに4,673着を集めることができた。

これらの活動を通じ、生徒たちは「ごみに見えるものも、ごみではない」ことに気付き、改めて「ものの価値」を見直すきっかけになっている。

活動エピソード

ボランティア活動のなかで、生徒たちは「自分たちも地域の役に立てる」「環境問題に貢献できる」と実感するように。活発に意見が飛び交うようになり、新たに自分たちが解決したい問題に向け、話し合い、企画化して実行することに取り組んでいる。

今後の展望

今後力を入れていくのは食品ロス対策だ。これまでの活動を通して、「まだ使えるのに捨てられているもの」がいかに多いかを知った。その最たるものが食品ロスと考え、現在学校のカフェテリアに食べ残し専用のボックスを置き、計量しながら削減へ意識啓発している。